

自由民主党綱領

- 一、わが党は、民主主義の理念を基調として諸般の制度・機構を刷新改善し、文化的民主国家の完成を期する。
- 一、わが党は、平和と自由を希求する人類普遍の正義に立脚して、国際関係を是正し、調整し、自主独立の完成を期する。
- 一、わが党は、公共の福祉を規範とし、個人の創意と企業の自由を基底とする経済の総合計画を策定実施し、民主の安定と福祉国家の完成を期する。



http://www.hokuriku.ne.jp/jf-isikw

機関誌

第12号

自由民主党

石川県支部連合会

組織広報本部

金沢市鞍月5-255
TEL 076-237-0911(代)
FAX 076-237-0915

第50回 県連 定例大会

次期衆・参院選で圧勝を 沓掛体制スタート

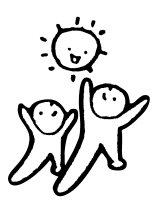
自由民主党石川支部連合会定例会は六月八日に開かれ、次期衆参両選挙の必勝を決議。新会長に沓掛哲男参院議員を選出した。北陸新幹線の建設促進などを盛り込んだ重点政策案なども了承した。



第五十回自由民主党石川支部連合会定例会は六月八日、金沢市の金沢エクスセルホテル東急で開かれた。冒頭、県連会長の森喜朗前首相は「(自民分裂後)石川の空白区を取り戻すことが最後の仕事。一党員として汗をかく」と参院選石川選挙区の議席奪還に意欲を示し、対決する現職の岩本莊太氏(無所属の会)が有事関連法案に反対したことを「共産党と変わりがない。そつうの方に日本海沿岸の大勢な議席を与えていいのか」と力を込めた。

定例会は優秀支部及び組織、功労者の表彰後、議事に入り、党情報告、平成十五年度重点政策案、沓掛哲男参院議員を新会長とする役員改選案などが了承された。

この後、参院選石川選挙区に出馬する岡田直樹前県議の公認申請を承認。岡田氏が決意表明した。瓦力、馳浩両衆院議員と来賓の谷本知事、庄源一公明党県本部代表、金原博新進石川会長のあいさつし、山出保金沢市長の音頭でバンザイ三唱した。



新執行部発足
沓掛 北村体制でスタート

定例会で承認を受け新会長に就任した沓掛哲男参院議員は「衆院選、参院選で党公認候補を圧勝させるため、党員、党友の拡大を図る」と強調した。

また、実質的な県連運営にあたる新幹事長には北村茂男氏(七期)、総務会長は上田幸雄氏(五期)、政調会長は福村章氏(七期)を起用。幹事長代理は矢田富郎氏(六期)、組織広報本部長には細野義昭氏(四期)を充て、衆参両選挙を控え、党内融和を図った新人事となった。

新執行部の主な役員は次の各氏。

会長 沓掛哲男 最高顧問(役員待遇) 中川石雄
副会長 長憲二、斉藤此農夫(軍恩連盟)、高澤タマ工(看護連盟)、梅田俊彦(医師会)、丹羽道子(女性局) 幹事長 北村茂男
総務会長 上田幸雄 政調会長 福村章 幹事長代理 矢田富郎 組織広報本部長 細野義昭 党紀委員長 米田義三 県議員協議会長 稲村建男 地方議連会長 藤井義弘 党大会代議員 北村茂男、長憲二



次期参院選に出馬 岡田前県議の公認申請を承認

県連の定例会は、来年夏の参院選石川選挙区に出馬する岡田直樹前県議の公認申請を承認した。平成十年参院選で敗れ、以後空白区となっている議席の奪還は県連の至上命題。金沢などで集票力のある若手前県議の擁立に踏み切った。岡田氏は「ふるさとから日本再生」をキャッチフレーズに活躍中。「一年余の長期戦に息切れせぬよう突っ走りたい」と決意を語った。



自民党石川県連会長 沓掛哲男

この度、皆様のご推薦を頂き、県連会長に就任致しました沓掛哲男であります。

さて、これからの我が県連の最大の課題は、この一年以内に行われます衆議院及び参議院の両選挙において、我が党の公認候補を圧勝させることとあります。

その為にも党員・党友の飛躍的拡大を図らねばなりません。この実現のために、皆様方のさらなるご支援をお願い申し上げます。

もとより私は微力ではありますが、職員を全つするため皆様のご指導を頂きつつ全力をつくして頑張りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



自民党石川県連幹事長 北村茂男

党員、党友の皆様には口頭より、県連に対しご理解、ご協力を賜り衷心よりお礼を申し上げます。

この度、第50回県連大会におきまして県連幹事長を拝命いたしました。北村茂男でございます。

我々、新執行部の至上命題として、来るべき衆議院議員選挙にあつては、1・2・3区に完全勝利を期するとともに、明年施行される参議院議員選挙につきましても、今般岡田直樹君を候補者として決定し、自民空白区議席の奪還を果たさなければなりません。

その意味において、組織の整備・選挙態勢の確立は喫緊の課題であります。今後関係各位のご協力を申し上げ、万全の対策を講じてまいります。

引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

自由民主党石川県支部連合会役員の主な顔ぶれ紹介 (前頁紹介の会長、幹事長除く)



その他の自民党役員

最高顧問 森喜朗、瓦力、馳浩、坂本三十次 常任顧問 石本茂、宮下正一 顧問 矢田松太郎、石田忠夫、博多又郎、枝畑一枝 総務副会長 小倉宏貴、和田内幸三 政調副会長 木本利夫 総務企画部会長 中村勲 厚生環境部会長 山田省悟 産業部会長 宮下源一郎 土木企業部会長 宮元陸 文教公安部会長 作野広昭 組織広報本部長 山田憲昭、下沢佳充、宮下源一郎、玉野道 市町村組織対策局長 山田憲昭 同局長 宮本惣一郎 職域・団体対策局長 下沢佳充 同次長 宮下正博 労政局長 作野広昭 広報局長 宮元陸 遊説局長 中村勲 同次長 小泉勝 青年局長 岡田直樹 青年部長 高岩勝人 女性局長 丹羽道子 財務局長 八十出泰成 同次長 村池敬一 会計監督 善田晋作、向出勉、福田太郎、高岩勝人、新村美智子 党紀副委員長 山田省悟 議員協議会副会長 吉田歳嗣 地方議連副会長 中村勲

県議会臨時会(組織議会) 県議長に向出勉氏

副議長は長井賢誓氏選出

委員会構成決まる

改選後の新組織を決める県議会の臨時会は四月三十日開かれ、第八十三代議長に向出勉氏(自民、五期)、九十四人目となる副議長に長井賢誓氏(同、四期)を選出した。議会議長の監査委員には自民から八十出泰成(同、四期)を選んだ。各委員会正副委員長の計二十二ポストはすべて自民と新進石川が独占し、県議会内の「自進連携」を維持した。

議長選挙は向出氏が四十六票中四十五票、副議長選挙では長井氏が三十九票獲得し大差で選出された。

臨時会で選出された各委員会のメンバーは次の各氏

(は委員長、は副委員長)
常任 総務企画 中村勲
小泉勝、藤井義弘、吉田歳嗣、北村茂男、厚生環境 宮下正博、山田省悟、紐野義昭、小倉宏貴、矢田富郎 産業 宮下源一郎、和田内幸三、八十出泰成、上田幸雄、中川石雄 土木企業 宮元陸 宮本惣一郎、米田義三、長井賢誓、善田晋作、福村章 文教公安 作野広昭、下沢佳充、山田憲昭、木本利夫、稲村建男、長憲一 特別 広域行政・広域交流 推進 山田憲昭 宮元陸

小泉勝、和田内幸三、小倉宏貴、米田義三、矢田富郎

人口問題対策 山田省悟、宮下源一郎、宮本惣一郎、木本利夫、長井賢誓、吉田歳嗣、福村章 地域産業活性化 藤井義弘、中村勲、紐野義昭、善田晋作、上田幸雄、稲村建男、中川石雄 教育問題・スポーツ振興 下沢佳充、作野広昭、宮下正博、八十出泰成、長憲一、北村茂男 議会運営委員会 矢田富郎、紐野義昭、上田幸雄、北村茂男、福村章 予算特別委員会 和田内幸三



県議長 向出 勉

ごあいさつ

この度、議員各位のご推挙により、第83代の石川県議会議長に就任させて頂きました。身に余る光栄であり、職責の重さに、身の引き締まる思いであります。

県議選で選挙区内を回り、予想以上に地域経済が冷え込んでいることを痛感しました。経済・雇用対策の拡大が必要であることを改めて考え



副議長 長井賢誓

活気とつるおいのある石川の創造

自民党石川県連の平成十五年度重点政策

県民が熱望している北陸新幹線の建設促進や、にぎわい創出も視野に入れた県庁跡地の利用、珠洲原子力発電所の立地など、積極的に取り組む方針を盛り込んだ自民党石川県連の平成十五年度重点政策が承認決定

足踏み状態の続くわが国経済は、いまだデフレ不況から脱却できず、戦後最悪の失業率を記録。依然として厳しい雇用状況の中、国民は不安の渦中にあり石川県も例外ではない。

これらの状況を打開するため石川県連は、国、県一体となつて県内経済の基盤強化、雇用不安解消に努めて社会の安定を図るとともに、県民の声を傾聴しそのニーズを把握。国政、県政の施策に反映されるよう最

- 大の努力を尽くす。
- 承認された本年度の重点事業は次の七項目六十件。
- 一、県土の基盤づくり推進(十件)
 - 二、地域産業の振興(九件)
 - 三、農林水産業の振興(八件)
 - 四、安心・安全な生活環境の整備(十件)
 - 五、教育文化とスポーツの振興(十件)
 - 六、生活福祉の充実と少子高齢者社会への対応(八件)
 - 七、自治振興対策の推進(五件)

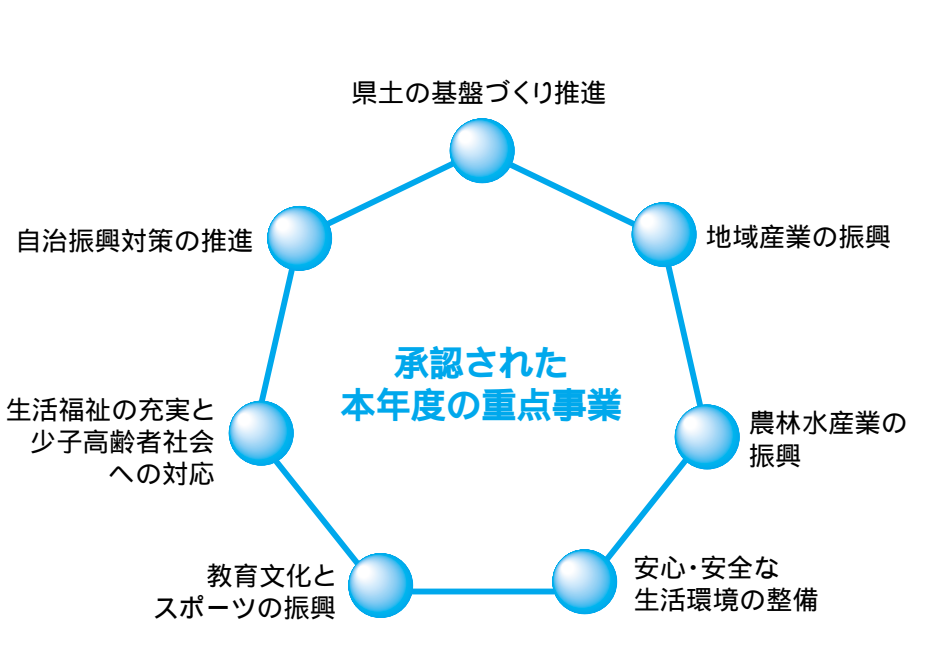
国・地方財政ともに厳しい中ではあるが、県の長期構想に基づいて、質の高い文化や産業技術、人材、豊かな自然環境などが県の優位性を生かしつつ、社会情勢の変化に対応して推進していく。

具体的には、県民福祉の向上、県土の均衡ある発展を図る道路交通網などのインフラ、生活環境の整備、農林水産業の振興、IT社会の構築など、「人、もの、情報」が交流する、活気とつるおいのある石川の創造

をめざしてまい進する。

なかでも、県民の要望が高い北陸新幹線の早期整備に関しては、引き続き関係各方面に強く働きかけていく。珠洲原子力発電所については、要対策重要電源地点であり、地域振興策としても重要な課題であることから、今回の選挙結果を踏まえ、適切かつ着実に取り組んでいく。

政調会では、今年も市町村・業界団体の要望を聞き県執行部に要請する。





満を持して代表質問 上田幸雄氏、 知事に迫る

県議会六月定例会は、六月十六日から七月一日の日程で開かれた。わが党の上田幸雄総務会長は、十九日、本会議において代表質問した。満を持しての登壇に原稿を暗記。終始、顔を上げて知事の姿勢をたどした。

代表質問で上田氏は「珠洲市で機運が高まっている時こそ、中断している(電源立地)可能性調査の再開に取り組みたい」と協力を求めた。これに対して谷本知事は「選挙結果は住民の思いが表れた」としつつも慎重姿勢を崩さなかった。

上田氏はそのほか県政全般に幅広く質問。知事の見解を求めた。

質問・答弁の要旨

外来語 県庁では安易に使われていないか。分かりやすい言葉をまず役所から進めよ。

谷本知事 分かりやすい日本語に訳して使うように意を用いたい。ただし書きや説明を加えるなどの工夫もしたい。

行革 県民の目から見ると甘い。スピード感にも欠ける。

谷本知事 成果重視へ目標管理型経営システムに移行した。職員の意識改革に全力を挙げている。

北陸新幹線 早期開通への決意は。



谷本知事 フル規格による富山以西への延伸が最優先課題だ。中央への要請時、七月の県民会議などあらゆる機会を利用して早期見直しを強力に働きかける。コメ消費拡大 松井選手を主役にした宣伝ができないか。

谷本知事 一つの方法と、思うが、児童生徒のコメ給食推進や加賀百万石ブランドを生かした首都圏への販売も大事だ。

党新人当選議員の紹介

年齢順



小泉 勝

【プロフィール】
こいずみまさる 羽咋郡北部 (志賀町)
昭41・7・15生
経歴役職: 県議会 総務企画委員会所属(副委員長)
党県連 組織広報本部遊説局次長

【政治信条・政策】
若い世代の新しい感覚で県政発展のため「ひたすら一生懸命」ガンバります。
・高齢者、弱者に温かい福祉社会作り
・子どもを生き育てやすい環境づくり
・職場確保のための企業誘致



宮下正博

【プロフィール】
みやしたまさひろ 鳳至郡 (門前町)
昭24・12・21生
経歴役職: 会社役員
県議会 厚生環境委員会所属(副委員長)
党県連 組織広報本部職域・団体対策局次長

【政治信条・政策】
安心して暮らせる県民の幸福と県政の発展に、また、21世紀の地域づくり人づくりに情熱を燃やし尽くす。



宮本惣一郎

【プロフィール】
みやもとそういちろう 鹿島郡 (中島町)
昭15・12・22生
経歴役職: 元中島町議会議員。現JAのとわかば副組合長
県議会 土木企業委員会所属(副委員長)
党県連 組織広報本部市町村組織対策局次長

【政治信条・政策】
能登の中核地域としての発展のため、道路網の整備、若者が定住できる街、人口減を止める新産業の創設。
能登空港の利活用による地域格差の解消と発展。

【北陸新幹線建設促進同盟会(五月二十日)】

北陸新幹線、富山 南越間のフル規格早期認可に向け、結束を図る

北陸と首都圏を結ぶ高速交通ネットワークの基幹となる北陸新幹線。長野 新大阪間のフル規格が実現すれば、現行より富山 新大阪間が百一分、富山 東京間が六十分の短縮となり、東海道新幹線の代替補完機能としても重要な役割を担うことになる。

現況では長野 富山間の建設が進んでいる北陸新幹線整備事業だが、未着工区間の認可を巡り、今、ひとつの大きな山場を迎えている。

五月二十日、東京都内のホテルで開かれた北陸新幹線建設促進同盟会の「北陸新幹線建設促進大会」には、自民党北陸新幹線建設促進議員連盟会長の森喜朗氏が参加。森氏は「見直しにはいくつかの条件があり、かなり厳しい状況にある」と大方の予想に反した見解を述べ、現在の社会経済情勢では年内の見直しが見送られる可能性もあると強調した。さらに「経済、財政状況

況を突破するのは、われわれと皆さんの努力だと思っ

ている」と沿線各県らの団結を促した。



自民党県連 ホームページ開設中!

<http://www.hokuriku.ne.jp/jf-isikw>

県連の紹介、議員のプロフィール、活動等を掲載しております。

ぜひ、ご覧ください。

幅広く黨員募集をしています!

自民党石川県連では、平成15年度の黨員を募集しています。入党希望の方は所在地の市村支部、職域支部を通じてお申込みください。

党費(年間) 一般黨員 4,000円
家族黨員 2,000円

『りぶる』を愛読してみませんか

公党で唯一の女性政党誌を購読してみませんか。購読希望の方は自民党石川県連までお申込みください。

発行月一回 年間購読料 3,600円

能登空港、新県庁、小松駅周辺整備 石川県政の三大プロジェクトが完成

1 能登空港が 一日二便で開港

平成十年十一月の着工以来、順調に建設が進められた能登空港は、今年度七月七日、羽田便一日二便就航でスタートした。空港用地は、輪島市、穴水町、能都町の一市二町にまたがり、能登有料道路の終点此木インターから珠洲道路を経由し、車で10分の立地にある。豊かな緑に囲まれ、自然環境や景観にも十分配慮して整備されたため、森の中の「空港」ともいわれる。

空港の完成によって、能登・東京間の所要時間は大幅に短縮。これまでのJR利用ならば六時間という道のりが、飛行時間約六十五分で日帰り可能となり、首都圏からのビジネス、観光客の増大が見込まれている。能登の主要観光地である輪島へは車で二十五分、和倉へは一時間という利便性のよさで、県内の観光ルートも広域化が進む見込みだ。

空港ターミナルビルには「能登の旅 情報センター」も開設され、訪れる旅客の



石川県が新世紀の基盤づくり及び、県政の拠点づくりのために進めてきた三大プロジェクト、能登空港の開港、県庁舎移転、小松駅周辺整備が、今年度中をめどに事業完了の予定となっている。

新県庁は今年一月にすでに業務を開始。小松駅周辺整備は今年中に建設を終える。能登半島振興の期待を一身に担う能登空港は七月開港。プロジェクト完成により、石川が目指す「人、もの、情報交流の活発化」が加速されることは間違いない。今後は「環日本海の中核県」としても、ますますの飛躍が期待される。

ために最新の観光情報を揃えている。そのほか、ターミナルビルには、奥能登広域行政の拠点である奥能登総合事務所、社会教育センター、能登分室、市町村行政サービスセンターなど十六の機関が入った「奥能登行政センター」がオープン。空港業務以外に行政機関を併設する、全国初の空港施設としても注目を集めている。

また、今年一月、「有楽町

能登ふるさと館」が、東京有楽町ツインタワービル一階に誕生。観光情報提供のほか、地場産品の販売も行い、首都圏に能登空港及び能登半島を強くアピールしていく方針だ。

今後の利用状況次第では、大阪・名古屋など国内はもとより、アジア近隣諸国との国際便就航も夢ではない。能登空港、能登の魅力の世界発信に向け、まずは第一歩が刻まれた。

2 石川県政の拠点 駅西副都心に完成

新石川県庁舎は、今年一月六日から業務を開始。北陸自動車道や国道八号、能登有料道路に接続する駅西の副都心に立地し、広域からのアクセスが格段に便利になった。



議会・行政・警察本部の三棟で構成される建物は、「人によさしい、環境によさしい、災害に強い」をコンセプトとし設計されたもの。特に、段差解消、手すり取り付け、目の不自由な人のための音声・点字誘導装置の設置など、バリアフリー化を重視し、利用者の利便性に配慮している。

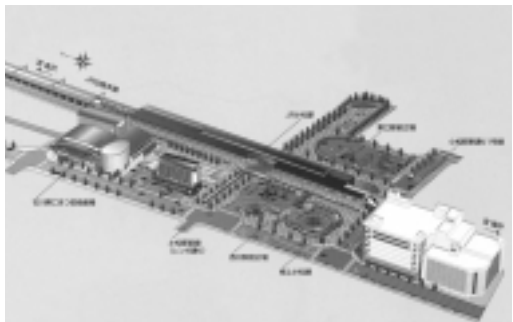
環境面では、太陽光・風力発電など自然エネルギーを利用する省エネルギー型システムを採用。周辺には、憩いの場として「県民の杜」や「鞍月セントラルパーク」を整備している。

防災対策にあたっては、六階に「災害対策本部室」を設置。大型マルチスクリーンで災害情報を瞬時に把握でき、迅速で的確な対応

3 鉄道高架と文化施設で 小松駅前活性化

JR小松駅周辺では、連続立体交差事業、駅東・駅西の土地区画整理事業の三つのプロジェクトが進行していた。すでに平成十四年十一月に、高架化とJR小松新駅が完成し、JR本線の高架切替を開始。市街地の五ヶ所の踏切撤去により慢性渋滞が解消され、今後は分断されていた駅西・駅東の均衡ある発展が望まれている。

JR小松駅は、南加賀の新たなシンボルゾーンとして整備されており、東西の駅前広場のほかに、今年度中に「石川県こまつ芸術劇場」が完成する予定。本格的なオープンは来年春で、小松市に受け継がれる子供歌舞伎など、多彩な文化活動が行なわれる。



LOOK OVER ISHIKAWA

もっと知りたい! 石川のお出かけスポット

金沢 城下町金沢のシンボル 金沢城公園

平成14年、NHK大河ドラマ「利家とまつ」で一躍脚光を浴びた、初代加賀藩主前田利家。彼が金沢城に入城したのは天正11年(1583)のこと。以後、金沢城は前田家14代の居城として城下町を見守ってきた。

時代は移り、現代になって金沢城址は自然あふれる公園に変わり、園内には、石川門など金沢城の遺構のほか、平成13年に復元された菱櫓、五十間長屋、橋爪門続櫓が堂々とそびえている。これらの復元建造物は、県内の宮大工が日本古来の伝統建築の粋を結集したもので、内部の見学が可能。広大な敷地内には自然林も残り、遊歩道が整備されている。ところどころに市街を展望する櫓跡なども点在し、眺めも抜群。のんびりと園内散歩を楽しみながら、加賀百万石の栄華に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



【TEL】076-234-3800【営】7～18時(10月16日～2月末は8時～16時30分)【休】無休【料】入園自由 菱櫓、五十間長屋、橋爪門続櫓の見学は9時～16時30分、入館300円

能登 昔ながらの揚げ浜式製塩 奥能登塩田村

かつて能登地方では、揚げ浜式製塩が盛んに行われていた。揚げ浜式とは、海水を撒いた砂をかき集め、濾過した塩水を煮詰めるという原始的な製塩法。想像するだけでも大変な重労働だ。現在、揚げ浜式を行っているのは、珠洲市仁江地区ただ1カ所。

仁江海岸に面する奥能登塩田村は、体験型の塩の資料館で、円柱形の外觀が印象的な「揚浜館」では、塩と人との関わりや塩作りの歴史などについて、映像やジオラマなどで分かりやすく紹介している。屋外には2つの塩田があり、40年以上前とほぼ同じ方法で塩

が作られる様子が見学できるほか、塩作り体験も可能。所要時間は約2時間。できあがった約20gの塩は持ち帰ることができる。海水のミネラルがたっぷりつまった塩を、ぜひ味わってみよう。



【TEL】0768-87-2040【営】9～17時【休】無休【料】入館300円 体験学習は5～9月の10～16時で要予約、300円